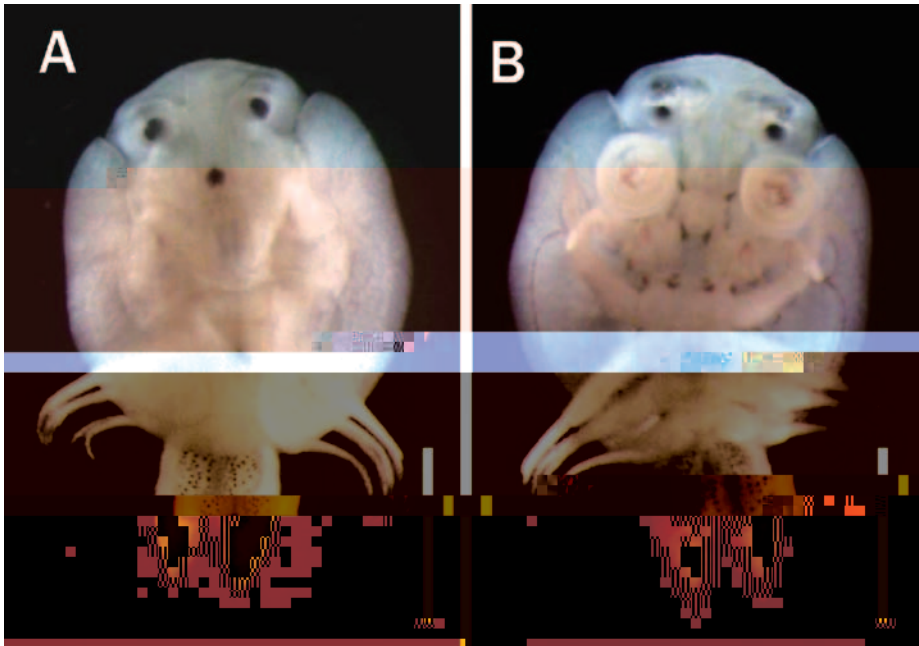


四国で初めて採集されたチョウモドキ

長澤和也¹⁾・池田祐二²⁾



() ()

長野県明科町（現在の安曇野市）にあった長野県明科水産指導所で飼育されていたアユから採集し、また () が和歌山県新宮市にある近畿大学水産研究所新宮実験場で飼育されていたアユから見出した。なお、竹上 () は和歌山県日置川においてチョウモドキがアユに寄生する可能性を述べている。アユはわが国の内水面漁業において最も重要な魚種のひとつであるが、アユに寄生するチョウモドキに関する知見は断片的で見べきものがない。今後は、野生アユおよび養殖アユにおけるチョウモドキの寄生状況等を明らかにする必要がある。

わが国では、チョウモドキが養殖サケ科魚類から多くされているため (; 長澤, を参照), サケ科魚類に特異的に寄生するように思われがちである。しかし、わが国で最初に報告されたチョウモドキの宿主がコイ科魚類のタナゴ () であることから分かるように、その宿主特異性は厳密ではないようである (長澤, ;)。このことと関連して、わが国の天然水域におけるチョウモドキの宿主範囲と宿主利用の解明は、今後の大きな研究課題と言えるだろう。これまでに天然水域で見出された宿主は、サケ科魚類のヤマメ (加藤,), アマゴ (田村・丸山 ; 長澤ら,), ブラウントラウト (長澤,), ゴギ (), アユ科のアユ (; 本論文), コイ科のタナゴ () であり、これらはいずれもチョウモドキに寄生されていた魚種が単に宿主として報告されたものである。河川や湖沼の同一水域に生息する複数魚種 (魚類群集) を対象としてチョウモドキの宿主範囲や宿主利用に関する研究が行われたことはほとんどない。僅かに () が島根県高津川最上流域で採集したゴギとタカハヤ (コイ科) ではチョウモドキはゴギにのみ寄生していたと述べ、同様に田村・丸山 () が奈良県五條市にある川原桶川で得たアマゴとアブラハヤ (コイ科) ではチョウモドキはアマゴだけに寄生していたと報告している。これからすると、河川上流域ではチョウモドキはサケ科魚類を主要な宿主として利用していると言えるかも知れない。一方、河川中下流域においては、そのような研究例はなく、サケ科魚類が卓越することはない。アユは春～秋季にわが国の河川中下流域にお

四国で採集されたチョウモドキ

いて優先する魚種である。今後は、河川中下流域において、アユを含む魚類群集を対象に、各魚種の宿主としての相対的な重要性を評価するとともに、チョウモドキの同属のチョウとの分布域や宿主利用の違いを明らかにすることが必要であろう。

謝 辞

アユとチョウモドキの標本を提供して下さった千葉市の池田遼志氏に感謝する。

引用文献

- , 16
加藤文男 . ヤマメに寄生虫 種 . 採集と飼育 , 26 :
長澤和也 . 日本産魚類に寄生するチョウ属エラオ類の目録 (年) . 日本生物地理学会会報 ,
64 :
15
47
5
Scientific Reports of the Hokkaido Salmon Hatchery 41
46
長澤和也・上野大輔・栃本武良 , 本州西部で採集されたチョウとチョウモドキ . 生物圏科学 , 48 :
12
中坊徹次 (編) , 日本産魚類検索 全種の同定 (第 版) . 東海大学出版会 , 東京 .
田村芙美子・丸山健一郎 , 奈良教育大学附属自然環境教育センター奥吉野実習林の川原桶川で確認
したチョウモドキ . 奈良教育大学附属自然環境教育センター紀要 , 9 :
15

長澤和也・池田祐二

**First Record of the Fish Ectoparasite *Argulus coregoni* Thorell
(Crustacea: Branchiura) from Shikoku, Japan**

AGASAWA

KEDA

Abstract

Key words: